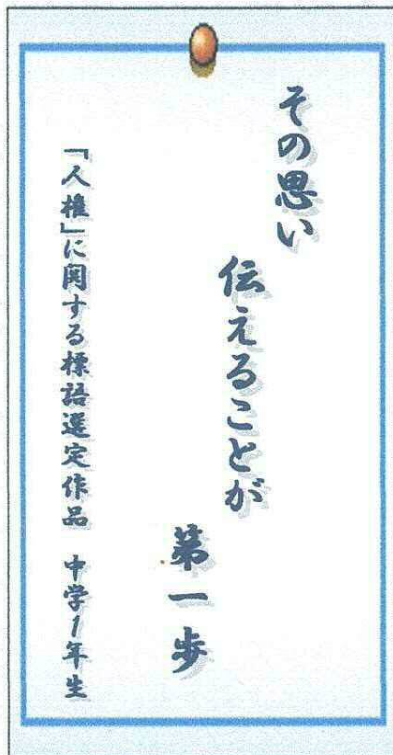


2014年度 人権作品集



「人権」に関する図画(ポスター)選定作品
中学生の部 3年生



「人権」に関する図画(ポスター)選定作品
小学生の部 2年生

はじめに

名張市・名張市教育委員会では、日常の家庭生活や学校生活、社会生活などでの体験を通して実感された、人権を守ることの大切さや偏見・差別などの社会の不合理をなくしていくことへの思いを表現した人権作品を市民のみなさんから募集しています。

本年度も、小学校・中学校・高校生・高等専門学校生をはじめ市民のみなさんから、「人権」に関する作文・標語・ポスター（図画）・フォトを合わせて一万三千三百八十三点もの応募をいただきました。今年度は、一般の方からフォトの部に応募いただきました。

全体を通して見てみると、あらゆる差別や人権問題の解決のため、家庭や学校・社会生活で自ら体験したことや感じたこと、学習で学んだことをとおして、人権尊重の大切さや、差別をなくしていくための意見、感想が述べられている作品、また観念的なものに止まるのではなく、自分自身を振り返り、自分の問題としてできることをしていこうとする姿勢や意欲が伝わってくる作品が数多く見られました。日ごろの学校、地域等での人権・同和教育の取り組みの成果だと喜んでいきます。

この作品集には、応募いただいた作品の中から、作文十点、標語十八点、フォト（写真）二点を掲載しました。

なお、ポスター（図画）については、二作品を啓発用のポスター及びティッシュとして活用し、標語については、二作品を啓発用ティッシュに活用します。

この作品集を通して、人権について考えていただくとともに、さまざまな学習の場でご活用いただき、人権意識の高揚と人権・同和問題の一日も早い解決に向けて、一層ご尽力いただきますようお願い申し上げます。

最後になりましたが、本年度、作品をご応募くださいましたみなさまに厚くお礼申し上げますとともに、来年度、より多くのみなさまにご応募いただきますよう心からお願いを申し上げます。

目次

作文

《小学生の部》

○新しいお友だち	(2年生)	4
○これからも、よろしくね	(2年生)	5
○ぼくは、二つの国の人	(3年生)	6
○大切な家族	(4年生)	7
○笑顔をくれてありがとう	(5年生)	8
○手話を覚えて	(5年生)	10
○まず、自分から	(6年生)	11
○経験から思うこと	(6年生)	12

《中学生の部》

○私のこと

(1年生)

・
・
・
・

13

○自分を変えるには

(2年生)

・
・
・
・

15

標語

《小学生の部》

《中学生の部》

《高校生・高等専門学校生・一般の部》

・
・
・
・

17

・
・
・
・

18

・
・
・
・

18

フォト(写真)

○心をひとつに

(高校3年生)

・
・
・
・

19

○つながり

(高校1年生)

・
・
・
・

19

新しいお友だち

(小学2年生)

先生が、この前の木曜日に、「うれしいお話をします。」

と言いました。わたしは、どきどきしました。先生が、月曜日から新しいお友だちが来てくれると言ったので、とてもうれしかったです。それは、お友だちが一人ふえるからです。それに、女の子だったから、とてもうれしいです。

でも、もし、わたしがてん校することになったら、友だちが一人もいないから、ふあんです。なかのいい友だちと、おわかれするのは、いやです。みんなやさしいかな、友だちになつてくれるかなと心ばいんです。クラスの中でこまったり、一人ぼっちにならないかなと思います。だから、みんなで「Aちゃんをあたたかくむかえて、なかよくなるうプロジェクト」の話合いをしました。

みんなから出たい見は、「学校のあん内をする。」「いっしょにあそぼって言う。」「いっばいお話をする。」「ふわふわことばで話す。」「おはようを言う。」などでした。みんなAちゃんのことをいっしょけんめい考えてるなあと思いました。

みんなでロッカーのばしよをかえたり、シールをはったりじゅんびしました。黒ばんに先生が「ようこそ、Aちゃん」と書いてくれて、まわりにみんなで絵をかきました。わたしは、ドラえもんをかきました。わたしは、ドラえもんがすきだし、Aちゃんもすきだったらしいなと思ったからです。絵を見て、よろこんでくれたらいいなと思いました。それに、Aちゃんがこまっていたり、一人でいたりしたら声をかけたいなと思

いました。

月曜日になって、Aちゃんが来てくれました。みんなで学校たんけんをして、Aちゃんにせつめいしました。わたしは、会ぎ室のところをあん内しました。Aちゃんが「わかったよ。」っていう顔をしてくれたので、うれしかったです。ほかのところもたんけんをして、いっばいわかったと思います。

Aちゃんは、ちばけんからみはた小学校まで来て、とおかつたと思うけど、ぎょう間とか昼休みにブランコをしていてたのしそうだったから、よかつたと思いました。今日はしゃべれなかつたけど、水曜日には、ゆう気を出してお話に行つて、友だちになりたいです。わたしのことをいっばい知つてほしいです。

わたしは、今のクラスの中で、なかのいい友だちは、いっばいいます。でも、あまりお話していない友だちもいます。そのお友だちにも、いっばいお話をしたいです。そして、もっと友だちになりたいです。

これからも、よろしくね

(小学2年生)

ぼくは、生い立ち学しゆうをしたときに、おかあさんから教えてもらいました。りゆうざんしたから、ぼくが生まれたって。その子が生まれなかつたから、ぼくが生まれたって。

りゆうざんして、すぐにぼくがおなかの中にいて、おかあさんやおとうさんやみんながぼくが生まれてこられるようにだいにだいにしてくれたと聞きました。おかあさんは、ぼくが生まれてこられるように、早めに入いんしたので、ぼくは、ぶじ生まれたそうです。それから、いもうとも生まれました。

生い立ち学しゆうをしているとき、おかあさんのおなかの中には、赤ちゃんがいました。それから、しばらくたつて、赤ちゃんが生まれました。おかあさんが赤ちゃんを生んだあとに入いんしていました。おとうさんが、

「もう帰ろう。」

と言いました。おかあさんにバイバイって言ったとき、はなれたくないと思えました。車にのろうとしたとき、おかあさんのへやが見えて、おかあさんがそこから手をふつてくれました。家の近くになると、きゆうにいもうとがなきだしたので、ぼくが、

「どうしてないてるの。」

と聞いたら、

「おかあさんがいなくて、さみしい。」

と言ったので、

「なんでそんなこと言うん。ぼくまでさみしくなるやん。」

ぼくはなきそうになつたけど、がまんしました。おふ

ろに入っているときにぼくは、

「今ごろ、おかあさん何してるんやろ。」

と言いました。すると、おとうさんは、

「もう、ねてんのちゃうか。」

と言いました。

つぎの日、おじいちゃん、おばあちゃんたちといっしょに赤ちゃんを見に行きました。かおが、おじぞうさんみたいで、かわいかつたです。

今、赤ちゃんはすぐなくから、めんどろをみなくてはあかんと思つています。ないたら、いもうとかわりばんこでだっこしたら、なきやみます。おむつをしてあげるときにねがえりをしたときは、こらゝつて言つてつかまえています。つかまり立ちをして、あたまをうつたときは、だいじようぶかなととてもしんぱいしています。

ぼくは、おかあさんがしんどくなつたら、たすけやなあかんと思つています。りゆうざんしたから、ぼくが生まれたんだから。そして、ぼくがぶじに生まれてこられるように、おかあさんがぼくのことをだいにしてくれただから。ぼくが、赤ちゃんのめんどろを見なくてはおかんと思つています。

赤ちゃん、生まれてきてくれて、ありがとう。

そして、赤ちゃん、おかあさん、おとうさん、みんな、これからも、ぼくのことをよろしくね。

ぼくは 二つの国の人

(小学3年生)

ぼくは、二〇〇六年二月二日に生まれました。生まれて二ヶ月で、はじめて中国に行きました。それから二年に一どは、中国に行っています。今年の夏休みにも「おうかじゆ大ぼくふ」というたきに行きました。アジアで一番大きいたきで、ほかの国からもたくさんの人たちが来ていました。

中国は、ものすごく広くて、人がいっぱいいてすごくにぎやかです。ぼくの声は大きいですが、中国の人はもつともつと大きな声で話すので、ケンカをしているみたいに聞こえます。町には大きなデパートやスーパーがあります、とても小さなお店もたくさんあります。町の空気がまずいのと、ゴミが多いのが残念ですが、やさしい人が多くいます。

お母さんは、とても大きな声でぼくをおこりますが、ぼくのが大好きなのでおこるのだと思います。お母さんは、中国から日本へ来てくれました。日本の料理のことがわからないのに勉強して作ってくれます。お父さんは、おもしろい話をしてくれますが、おこると話が長いです。毎日仕事であまり会えないので悲しいですが、休みの日はいっしょに遊んでくれます。お母さんのことを、「孟さん、孟ちゃん」とよびます。「中国の人とけっこんしたので、中国の名前でいいのだ。」

と言います。ぼくもそう思います。

中国人のお母さんと、日本人のお父さんが合体してできたのがぼくです。

だからぼくは、二つの国の人なのです。

ぼくは、日本で生まれて育ったので、日本はぼくの

住みかです。ぼくの家のまわりには、自ぜんが多くて空気がとてもおいしいです。中国とくらべると人が少ないので、にぎやかではありません。大阪に行ったら、中国みたいにかくさんの人がいて空気はおいしくありませんでした。中国みたいな小さなお店が少ないです。みんなやさしい声で話しますが、やさしくない人もいますし、やさしい人もいます。

ぼくは、前まで、日本人だと思っていました。でも今は、どちらか一つにしろと言われるとこまります。

住んでいるのが日本なので、日本が好きですが、中国も大事です。

ぼくは、日本語はいっぱいしゃべれるけど、中国語はあまりしゃべることができません。だから、お母さんは、

「中国語を勉強しなさい。」

「中国語の先生です。」

と自分で言っている時もあります。

お母さんは、中国からお父さんとけっこんするため日本にきました。中国にいるお母さんの家族は、ぼくの親せきで、ぼくにとてもやさしくしてくれます。

ぼくは、中国と日本の人でよかつたなと思います。中国も日本も、どちらの国も大好きです。

大切な家族

(小学4年生)

わたしの、一番の宝物は家族です。ですが、その家族の一人おじいちゃんが四月に病気で死んでしまいました。わたしは、おそう式の時いっぱいいなみだができました。なぜなら、わたしが小さかったころにいっぱい遊んでくれたし、おじいちゃんが病気と分かった時に、もう起きられなくなったから、わたしがずっとかいごをしていたからです。

おじいちゃんのかいごができたのはお母さんとおばあちゃんのおかげです。お母さんもおばあちゃんもかいごの仕事をしているので、わたしもそのえいきょうをうけおじいちゃんのかいごがしっかりできたんだと思います。

おじいちゃんが死んでしまつてからは、弟とわたしとで毎日泣きました。おじいちゃんが病院でねていた時、弟とわたしがかけつけるまで目が開かなかつたけど、弟とわたしがかけつけると、『パッ』と目が開いたのです。

目が開いた時は、とってもうれしかったです。けど、それからのおじいちゃんは、息は自分で上手くできなくなり、動けなくなりました。その時わたしは心の中で思いました。

『最後まで一緒にいたいなく。』けど次の日は学校だったので家に帰りました。次の日の朝おじいちゃんは、死んでしまいました。家族みんなで病院へ行きました。かけつけた時は、もう息はしていなくて、体もつめたくなっていました。それから、おじいちゃんが家にはこぼれた時、またいっぱい泣きました。けど、その時おじいちゃんは、口があいていて、『ニコッ』とわら

っているようにみえました。その時わたしは、『天国からもみまもつていてね!!ぶじに天国に行つてね!!』わたしは心の中でそう思いました。

おそう式がおわつて次の日からまた学校に行きました。おじいちゃんの事でわたしがつらかった時声をかけてくれた友達やいっしょに遊んでくれた友達が何人もいました。

そんな友達がいてくれてわたしは、『しあわせだね。』と、思いました。わたしは、家族だけではなく、友達にもはげましてもらいました。とてもうれしかったです。

わたしはおじいちゃんが死んでしまつてとても寂しかったです。けど、このようないけんをして『これからいっばい人を助けて、もつと家族や友達を大切にしよう!!』そう心の中で決めました。これからのわたしの目標は、「人をきずつけずに、助けて、平和な世界」です。なので、これからは、この目標をまもり、平和な世界をつくりたいです。そのためには、家族や友達をもつと大切にしていきたいです。

笑顔をくれてありがとう

(小学5年生)

私はよく笑います。今まで出会った人はみんなおもしろくて楽しくてやさしかったです。その中でも一番笑顔くれたのは、私の妹です。妹の名前はあやのといっています。私は妹のお世話をするのが好きです。

しかし、少し大きくなっても、時々泣いてけつたりあばれたりすることがあつて、泣いたら何でこんな風になるのかなと思ひ、

「あやちゃんは、何でしゃべれないの。私があやぐらいの時は、もういろんなことしゃべってたよ」と言う時、ママはこう答えました。

「あやちゃんにはできないことは、周りの子にはみんなできるんだよ。」

私はその時初めて知りました。妹は、生まれつきしゅうがいがあることを。両親は、一才半ぐらいの時気がついたそうです。ママがミルク作って世話する時間が長くなり大変そうだな、みんなと同じことができてほしいな、などいろいろ考えるが頭にうかびました。

私が小学校に入学すると、妹と一緒にいる時間が少なくなり、少しさみしくなりました。家では、何をしても泣かれたり、たいていきたりします。私もたたき返すこともありす。でも、テレビを見ていて二人でよく笑うことも多くなりました。けんかをして、ゴメンもなしに知らないうちに仲良くなっています。外では、いつも私の近くについて、何か落とすと拾って届けてくれるようになるなど、ありがたいと私が言うことも多くなってきました。

保育園の年少の時、

「笑顔を見せてくれるかなあ。」

と言いなながら、妹の初めての運動会を見に行きました。

しかし妹は、
「うえーん。」

と大きな声で、ぼろぼろと涙をこぼしながら泣いていました。思っていたのと違いました。

妹が入学する時に、どの小学校に入学するか両親が話し合っていました。私は同じ学校に来てほしいと願いました。きょうだいは同じ学校に来るものだと思っていたから、東小に入学すると決まってもホッとしてました。

一年生になった妹は、友だちにお手伝いをしてもらうことが多いです。私が教室にいくと一緒に絵かきをしてくれたり、ハンカチをたたむのを手伝ってくれたりしています。もうちよつと感謝できないかなあと思うこともあります。でも、周りの友だちは、みんなとちがうということをおわかってきているようです。言いたいことが上手く言えなくて友だちの手をかんでしまったこともあるけれど、いじわるはしません。やり返したりもしません。私だったらおこるので、えらいなあと思います。だから友だちがたくさんいるのだと思っています。

運動会の前には、家でずっとダンスの練習をしていました。曲が終わると、私の手を引っ張りに来て、パソコンの再生ボタンの所まで指を持っていきます。自分でも押せるはずなのに、わざわざ私の手を持っていきます。手をつなぐと妹の手はとても小さいです。一緒に踊る時もありました。学校では友だちと妹の教室に行き、簡単な組み体操をして一年生を腕に乗せたり

持ってあげたりしました。みんなはきやあきやあ笑っています。妹を乗せることもありました。

当日は、「うらじゃ音頭」で、私が朝礼台の上でマイクを持って

「ハイハイハイハイ。」

と音頭を取りました。妹は百万倍の笑顔で踊っていました。ママが、校長先生に

「きようだいそろって、運動会でおどって、夢のようです。」

と言っていました。

たとえみんなより少しゆっくりでも、こんな笑顔が続くような学校生活を私と一緒に送ってほしいです。

私はその背中を押してあげたいです。まだまだ食べ物の好き嫌いも多くて、気に入ったものしか食べない時もあるけど、いつか私と同じものを食べて、二人で

「おいしいな。」

と笑顔で言ってみたいです。

手話を覚えて

(小学5年生)

私の友達に、耳の不自由な子がいます。その子は、名張から津の小学校へ毎日電車でかよっています。その子とは、バスケットボールで出会いました。遠くの学校に行っているため毎日練習には来れないけど、できるだけ来ていました。

私は、出会ったときバスケットボールにはいったばかりで、その子がどんな子かあまり知りませんでした。私は、その子のことをもっと知りたいと思いました。しゃべるためには、手話を覚えなきゃいけないので、友達と一緒に手話を覚えました。数日後、勇気を出して手話であいさつをして、しゃべりかけました。すぐくきん張したけど、自分が思ったより楽しくて、きん張もすぐにほぐれました。手話がまちがってないかがとても心配だったけど、まちがえても自分の伝えたいことは伝わったので、

「はあく良かった」と思いました。

次の日から、時々しゃべりかけてくれました。私は、とてもうれしかったです。それから、どんどん自分からしゃべりかけていきました。

私は、一度こんなことを思ったことがあります。

「耳が聞こえないってどんなだろう」ということで。なぜなら、自分自身が耳が聞こえないという経験をしていないからです。一度経験しているのならその子の気持ち分かるけど、経験をしたことがないことは、なかなか想像できません。だから、どういふ感覚かも分かりませんでした。ただ耳が聞こえないというのは、とても、つらいことなんだろうなと思いました。

そこで、その子のお母さんに一度だけこんなことを

聞きました。

「○○○ちゃんは、耳が聞こえなくてイヤだと言ったことはありますか」と。そのとき、その子のお母さんは、

「その子は、生まれつき耳が聞こえないからみんなは、友達の声や音が聞こえるのが、とう然だけど、この子は、聞こえないのが、あたりまえなの」と言いました。

私は、その時耳が聞こえてないことがあたりまえなんだ、と分かりました。

私は、その子と出会えていろいろなことを経験できました。自分から行動しないと、相手のことは本当にはわからないと思います。それに、自分があたりまえだと思っていることは、いつも誰にとってもあたりまえではないということも知りました。だから、私はその子と出会えたことに感謝しています。

これから、わからないことがあったら、自分から行動していききたいです。そして、いろんな人の考え方や感かくを知っていききたいと思います。

まず、自分から

(小学6年生)

いじめられたくない。きらわれたくない。それは、みんなが思っていることです。私はいやがらせを受けている人を見たことがあります。が、いやがらせを止めることはできませんでした。なぜなら、私がいやがらせを受けている子に声をかけると、私も同じことをされると思ったからです。みんな、「いじめをなくそう。差別をなくそう。」と、言っています。その先まで考える人は少ないと思います。私もあまり考えていませんでした。いじめをなくすには、私はどうしたらいいんだろう。と考えても、結局答えは見つからずじまいでした。

私は社会見学で、大阪人権博物館に行きました。そこは、色々な物が展示されていて、とても勉強になりました。その中で私は、印象に残っているものがあります。それは、いじめ問題のコナーです。そこには、私ぐらいの年の子や、二十才ぐらいの人たちで、いじめを受けて自ら命を絶った人の遺書や、その親のメッセージなどがありました。まず、私ぐらいの子が自殺してしまうことを知って、胸が痛くなりました。どうしてこの人たちが、何の罪もない人たちが亡くなってしまったらう。怒りと悲しみで心がいっぱいになりました。家族や友達も、私ぐらい、いや、もっともつとつらい思いをしたんだらうなあと感じました。生きたくても生きられない。これはとても悲しく、つらかっただらう。と遺書などを見て伝わってきました。「いじめは、周りの人の力で少しでも、弱くなるのでは。」という気持ちが入れられないのも、いじめにつながると

思います。「もしも世界が、100人の村だったら」という本を読み、私はそう感じました。世界には、様々な個性のある人がいて、様々な長所・短所があると思います。個性は人の長所で、それを受け入れられる人が多い方が、もちろん良いと思います。逆に言えば、個性を受け入れられない人が、人をいじめて、追い込むまでしてしまうと思います。広い心を持つことも、いじめをなくす一歩につながるのではないのでしょうか。この作文を書いて、そして出てきた答えは、「私たちの力でいじめをなくす」「広い心を持つ」ということです。私は今、心がけて行っていることは、二つあります。一つは、できるだけたくさんの人に朝「おはよう。」と自分から言うことです。もう一つは、自分や誰かのために何かをしてくれた人に、必ず「ありがとう。」と言うことです。当たり前のようなことですが、この二つは、とても大切なことだと思っています。六年生になつてから、意識して続けようと思つてやっていますが、まだまだ足りないなと思うことがあります。

まずは自分から、声をかけていく。そして個性は長所だと再確認し、もう二度と、いじめで命が消えないように、絶望の闇におおいつくされないように。私たちが広く、強い心を持って、いじめを減らしていこうと思えます。

経験から思うこと

(小学6年生)

私には、足と腰がよくない母がいます。母は、移動する時、車いすに乗っています。

ショッピングセンターなどの外出先で、私が母の車いすを押している時、すれ違う人の中に、いかにもじやまくさそうな目で、こつちを見てくる人がいます。お店にたくさんの方がいる時など、確かに少しじやまかもしれないと思う時はありますが、私は「車いすに乗ってわざわざ外出しなくてもいいんじゃないの」と言われているようで、何かとても悲しい気持ちになっでしまいます。おかしいのは、そういった視線だけでなく、エレベーターに車いすを押して乗ろうとした時に、まだスペースがあつて、つめてくれれば乗ることができるのに、つめてくれなかつたり、車いすが通るのは、明らかにわかっている、となりにもう一本の道があるのに、もう一本の方を通ってくれずにまっすぐ来て、こつちの行く道がふさがつてしまつたりする事です。

そんな時、私はとても複雑な気持ちになります。私の気持ち以上に、母は、いたたまれない気持ちになつていふことと思ひます。

最近では、スマートフォンを持つ人が増えスマートフォンをしながら歩いてる人が多いのも気になります。スマートフォンを使いながら歩くと、前が見えないので、車いすにつつこんで来ることもなりかねません。車いすなどが通るには、優しくない道になつていふと思ひます。

このように、悲しい気持ちになつた時のことを書きましたが、いつもこんな気持ちになつたときばかりで

はありませぬ。今までに、私と母が困つていふところを助けてもらったという場面が何度もありました。交差点の段差に車いすの車輪が入つてしまつた時に、引き上げるのを手伝つてもらつたり、エレベーターに乗る人がたくさん待つていふ時に、先にスペースをつくつて乗るのをゆづつてもらつたりしたことです。私も母もともうれしくて、心が温かくなつたのを覚えていふます。

母といつしよに出かけ、母の車いすを押す経験をして、いふろんな気持ちを感じたことで、思ふことがありふます。この経験から感じたことで、思ふことがありふます。

私は、車いすに乗つていふても、いなくても、障がいがあつても、なくても、あらゆる人が街に出かけたり、ショッピングなどを楽しんでいふることは、あたり前のことだと思ひます。あらゆる人の、こんな風に生活していききたいという願いがあたり前になる世の中になつるためにも、いふろんな人がお互いのことを考へて、だれもが幸せに生きていくための方法を考へていく必要があつると思ひます。私も、母の車いすを押す体験を通して得たことを活かして私にできることを考へていきたいです。

私のこと

(中学1年生)

私は、学校で支援学級に在籍しています。なぜかというところは人と話をしたりすることがとても苦手で、まわりの人が話していることがわからなかったり、また、授業でする活動のやり方などがすぐ理解できなかつたりするからです。

でも、普段は交流学級で授業を受けることが多いため、大変さを感じる人が多いです。

人間関係におけるトラブルも起こりました。

以前、私は、ある人に嫌な思いをさせてしまったことがありました。でも私は全く気付いていませんでした。

その時、その人は、言葉ではなく態度でその嫌な気持ちや伝えようとしてきました。普通はそこでそのことに気付くようですが、私はすっかり混乱してしまいました。「どうしてあんな行動をするのかな」と思いつつ、だんだんとその人に対する嫌な気持ちが大きくなっていききました。どうしてそういうことをするのか、直接相手に尋ねることができたらよかったです。それでもできず、関係はだんだんと悪化していききました。そしてある日、ようやく話をする機会を持つことができ、その人の思いを知ることができました。私は、態度ではなく、直接言葉で伝えてほしかった、と思いました。

その他にも私は、強い口調がとても苦手です。自分が注意を受けていなくても、怖くて仕方ない気持ちになり、気持ちや落ち着かせるのにも苦勞します。両親や先生、クラスメイトがなんとなくでも強い口調で話しかけてくるとずっとそのことが頭から消えず、

また、自分に対してではなくてもその人に対して苦手意識を持つてしまいます。

また、私は、相手の目を見て話すことがとても苦手です。どうしても自分でもわかりませんが、ごく限られた一部の人は目を見て会話ができますが、ほとんどの人と話をする時は目を伏せてしまいます。

一般的に、話をする時は相手の目を見て、と言われるので、私の態度は相手に不快感を与えているのかもしれないと心配になることもあります。

小学生の頃は、目を見るのが苦手ならば、あごとか鼻を見て話すようにしたらどうかと先生に言われ、そうしようとして努力をしたこともありましたが、でもなかなか難しいです。

そんな中でも、私が一番大変だ、苦手だと感じることは、新しい事に挑戦しなければならぬ時です。

学校の授業では、教科書を使った授業の他に色々な課題をしなければなりません。例えば、理科の実験や家庭科・美術の課題制作などです。

実験などは初めに先生が器具の使い方や注意点を説明を聞くとしていただきます。私はいつも、真剣に意味などがわからないことがあります。自分から先生やまわりの人に確認したらいのですがそれもなかなかできずにもやもやした気持ちのまま作業を始めることになりがちです。そこで、私が手順を間違えたりして先生や同じ班の子が「違うよ」と指摘することがあります。そうなる時は、もうどうしたらいいのかからなくります。先生や指摘してくれた子が自分のことをバカにしている、と思ってしまうものすごく腹が立つてしまいます。

小さい頃から私は、失敗をすることがとても苦手でした。何でも完璧にしないと気がすまず、いつも怒っていたそうです。

小学校で漢字の宿題が出た時に、私は、とめやはねの形がうまく書けずに怒り出し、暴れて泣いて母に注意されたことが何回もありました。

今では、そこまで完璧でなくても前ほどは気にならなくなりましたが、それでもやはり失敗することにはものすごい不安を感じてしまいます。

これから先、私は学校を卒業し、社会に出ていくことになります。その時、私のこれらの「苦手なこと」は、大きな障害になるかもしれません。

障がいがあるから、苦手だから、と言ってすべてが許されることではないとは思いますが。私は、少しでも苦手という意識が少なくなるよう心がけて努力をしています。

私以外にも、同じような苦手を感じている人がいると思います。そういった私たちのすべてを理解して受け入れてもらうことは、とても難しいと思います。でも、少しでも私たちが感じていることに目を向けてもらえたら嬉しいし、障がいのある人たちも過ごしやすい社会になるのでは、と思っています。

自分を変えるのは

(中学2年生)

後で聞いた。本当は辛かった、生きていくのがしんどかった。そんなになるまで親友を追いつめたのは紛れもなく私だった。

私が所属しているバレーボール部の二年生は六人。常に一対五で行動していた。一人で行動していた子はそれが普通かのように過ごしていた。その子の内心をきちんと見ていけば・・・と今は後悔しか出てこない。私たち五人は二人組でパスをするとき、その子とペアになったら嫌な顔をしたり、ミスをしたりしたら、「ほんまないわ。」

「なんなん。」

「下手くそ。」などと聞こえるか聞こえないかくらいの声でささやいたりした。それに加えてひどいときには無視。ボールをその子にだけ強く打ったりもしてしまった。でもその子はやっぱり平然としていた。

私とその子は、小学二年生からの付き合いでお互いを親友という存在と思っていた。肩を組んで階段を上り下りしたり、家でお泊りをしたりだった。そんな子を裏切ったのは私で、親友に裏切られたその子は、次第に自分の殻に閉じこもるようになっていった。

そんな彼女の様子を見ていると心配になり、ある男子にこのことを相談した。すると彼は、「そんなんお前が悪い。はぶかれてるあいつがかわいそうや。俺はあいつの味方につくで。」と言った。それは分かっていた。分かっていたけれど、一歩ふみ出せない自分だった。私はそんな自分が大嫌いだった。

「変わりたいんやったら自分から行動するしかないんやで。」彼が言った言葉は私を大きく動かした。自分か

ら変わろう。大嫌いな自分から卒業しよう、そしてきちんと謝ろうと。

そんな時その子からLINEが来た。正直びっくりしたけれど、これがチャンスだと思いLINEを開いた。するとそこには、

「私は今の作っているようなあなたが大嫌いです。必要最低限のこと以外話したくないです。あなたがもとのあなたにもどるまで関わりたくないです。」と書かれていた。この文章を読んだときは、とまどい、正直腹が立ったけれど、私が変わるチャンスだと思い、勇気を出して彼女に謝った。言った瞬間、苦しかった心が少しやわらいだ気がした。相手からの返事は、

「まだ前みたいないな親友には戻れないけど、仲良くしてほしい。親友に裏切られてすごく辛かった。みんなに心配かけたくなかったから一人で抱えこんでいた。」というものだった。私は、裏ですごく傷ついている親友の心を感じとれなかったことを後悔した。

私とその子が仲直りをする、他の四人もその子と話すようになっていった。なんだか自分のしてきたことがみんなをしばっていたみたいで申し訳なくなかった。このことがあって分かった。心ない行いによって人は傷つき、その傷はすごく深く、いやすにはすごく時間がかかる。傷つけてしまった方は大きな罪悪感におそわれる。周りの雰囲気を変えてしまうのは自分で、

一対一で対立していたとしても周りに気をつかわせ巻きこんでしまう。何一ついいことなんてない。私たちの見えない場所で苦しみもがいている。また、そういう時にこそ声をかけて安心してもらうことが大事だということ。たくさんのことを身に染みて感じた。

そして最後に、変わりたいなら自分から行動しなく

てはいけないことも分かった。自分が変われば相手が変わる。大嫌いな自分を克服してこそ、信頼関係を築くことができる。

だから私は、これから友達や親友を大事にしていきたいし、心に傷を負っている人にこそ、一言でも声をかけていきたい。自分を変えたいと思っただけならすぐに行動に移すことを心がけていきたい。

標語

【小学生の部】

- ・生きる価値 みんなにあるから 差別なし
(5年生)
- ・友だちが 笑顔になると しあわせだ
(5年生)
- ・みている子 止めなきや同じ いじめだよ
(5年生)
- ・それぞれが 同じじゃなくても いいんだよ
(5年生)
- ・ひろげよう やさしい言葉 思いやり
(5年生)
- ・友だちの 心の声に 気づこうよ
(5年生)
- ・すてきだね やさしい言葉 言える人
(5年生)
- ・思いやり 笑顔の一步 ふみだそう
(6年生)
- ・あいさつはみんながつながる合言葉
(6年生)
- ・見ないふり あなたもいじめる 一人だよ
(6年生)

【中学生の部】

・その思い 伝えることが 第一歩

(1年生)

・人権は ぼくらをつなぐ 世界の輪

(1年生)

・つなげよう 笑顔あふれる 行動を

(1年生)

・育もう 差別をなくす その心

(3年生)

・悪いこと 悪いと言える それが友

(3年生)

【高校生・高等専門学校生・一般の部】

・「ありがとう」 感謝の心 忘れずに

(高校1年生)

・広げよう 仲間とともに 笑顔の輪

(高校1年生)

・踏み出そう いじめを止める 第一歩

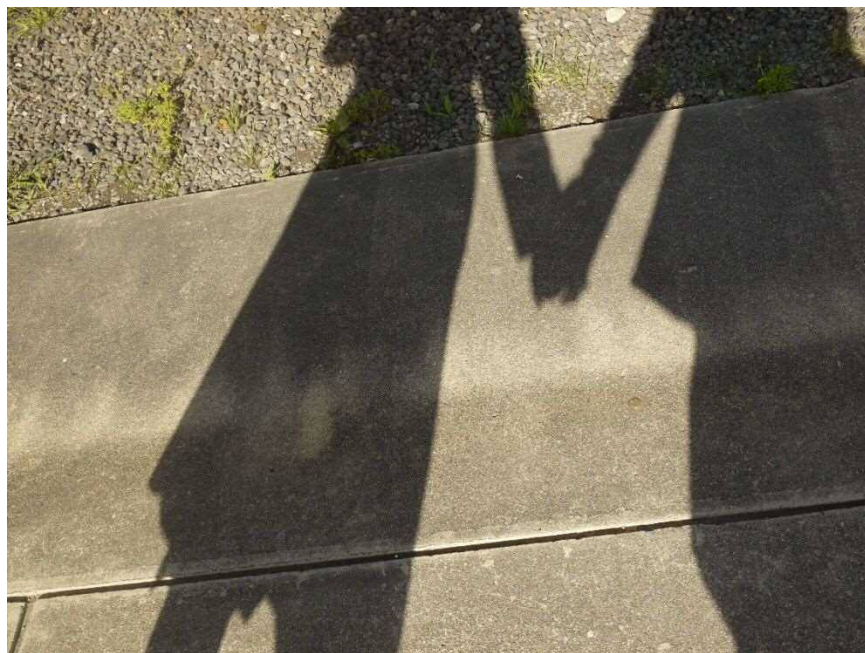
(高校1年生)



高校3年生

タイトル：心をひとつに

コメント：いつも仲間がいる。一人じゃないんだよ。



高校1年生

タイトル：つながり

コメント：影だからいつかは消えてしまうけど、この二人は消えずにずっとつながってほしいです。



—人権作品集—

2015年2月発行

名 張 市

名張市教育委員会

この冊子は再生紙を使用しています。